

# 令和4年度 鳥取大学 技術部 技術発表会プログラム

日時：令和5年3月15日（水）13:15～16:55（接続13:00～）

Google Meet (<https://meet.google.com/otc-cefk-mjz>)

13:15-13:20	開会挨拶	技術部長（研究・IT担当理事）	河田 康志
13:20-13:27	「各部門年度総括」	化学バイオ・生命部門 技術長	甲斐 政親
13:27-13:34	「各部門年度総括」	情報システム部門 技術長	三谷 秀明
13:34-13:41	「各部門年度総括」	工学技術部門 技術長	池添 保雄
13:41-13:48	「各部門年度総括」	生物生産管理部門 技術長	岩下 博通

## 【第1セッション】 座長：化学バイオ・生命部門

13:50-14:10	「解剖実習期間を通じた実習室の空气中ホルムアルデヒド濃度の推移調査」	化学バイオ・生命部門 組織解析分野	古都 良太
14:10-14:30	「令和4年度地域貢献活報告」	化学バイオ・生命部門 生物化学分野	足立 昭子

## 【第2セッション】 座長：情報システム部門

14:30-14:50	「グリーンワークフローにおけるUPKI電子証明書のボット化」	情報システム部門 情報基盤技術分野	藤尾 聡
-------------	--------------------------------	-------------------	------

14:50-15:10 休憩（20分）

## 【第3セッション】 座長：工学技術部門

15:10-15:30	「三次元測定機導入と測定講習会の開催」	名古屋工業大学 装置開発課	加藤 嘉隆
15:30-15:50	「セメントの強さ試験の紹介」	工学技術部門 社会基盤技術分野	畑岡 寛
15:50-16:10	「ものづくり教育実践センター実習工場における教育研究支援及び地域貢献活動報告」	工学技術部門 機械加工技術分野	村松 隆司

## 【第4セッション】 座長：生物生産管理部門

16:10-16:30	「野生イノシシにおける豚熱感染について」	生物生産管理部門 乾燥地科学分野	沖田 総一郎
16:30-16:50	「農学部附属フィールドサイエンスセンター畜産班の業務について」	生物生産管理部門	梅實 貴之
16:50-16:55	総括 挨拶	技術部 統括技術長	三谷 秀明
	閉会		

## 【令和4年度 鳥取大学 技術部 技術発表会 発表概要】

### 「解剖実習期間を通じた実習室の空气中ホルムアルデヒド濃度の推移調査」

○化学バイオ・生命部門 組織解析分野 古都 良太  
化学バイオ・生命部門 生物化学分野 大西 弘志  
化学バイオ・生命部門 亀家 俊夫

鳥取大学では、毎年、解剖実習の開始時に実習室の空气中ホルムアルデヒドに対する作業環境測定を行い、作業環境測定報告書を作成している。しかし、今回、約40回の解剖実習期間を通して作業環境測定を行い、ホルムアルデヒド濃度の推移を調査したところ、実習開始時は第1管理区分（適切）とされた判定が、実習期間の途中に第2管理区分（改善の余地あり）となる時期のあることが判明したため報告する。

### 「令和4年度地域貢献活報告」

化学バイオ・生命部門 生物化学分野 足立昭子

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、この数年、化学バイオ・生命部門が関わる科学教室などの地域貢献活動が行えずにいましたが、今年度は3年ぶりに（一部）通常開催されました。コロナ禍での対面開催に向けた内容検討や工夫なども含めた当日の様子について報告致します。

### 「ガルーンワークフローにおけるUPKI電子証明書のボット化」

情報システム部門 情報基盤技術分野 藤尾 聡

鳥取大学は、UPKI電子証明書発行サービスに参加している。UPKI電子証明書の発行申請にあたり、紙の申請・承認とCSRの授受、申請内容とCSRの確認、発行作業を行っていたが煩雑な作業となっていた。申請から発行するまでに時間を要すことの課題もあり、それに加えてサーバ証明書有効期間短縮の問題もあり、発行処理の対応軽減が必要であった。そこで、ガルーンのワークフロー機能と、ガルーン連携APIとpythonによるスクリプトを用いて、電子申請と証明書の自動発行を行うシステムを実現した。

### 「三次元測定機導入と測定基礎講習会の開催」

名古屋工業大学技術部 装置開発課 加藤嘉隆

技術職員主体の高額設備導入と、導入後の目標として掲げた講習会の実施成果について報告する。

学内の設備経費に応募し、本年度ものづくりテクノセンターに三次元測定機を導入することができた。また導入後の目標として測定の基礎に関する講習会実施を掲げていたため、先日これを実施した。

この2つの活動の、経費申請で意識した点と、実施した測定基礎講習会の成果について報告するものである。

## 「セメントの強さ試験の紹介」

工学技術部門 社会基盤技術分野 畑岡 寛

構造・材料実験では、セメントの強さ試験を担当している。セメントの強さ試験には曲げ強さ試験と圧縮強さ試験がある。セメントと水を練り混ぜ後、角柱供試体用型枠に入れる。28日間、20度の恒温室で水中養生を行い、28日強度を試験する。強さ試験は、セメント物理試験（JISR5201-97）の規格で行う。セメントと水の練混ぜ方法、供試体用型枠の成型の方法、脱型と水中養生の方法、曲げ試験と強さ試験の試験方法、試験後の計算方法と考察の方法について紹介する。

## 「ものづくり教育実践センター実習工場における教育研究支援及び地域貢献活動報告」

工学技術部門 機械加工技術分野 村松 隆司

ものづくり教育実践センターが行っている日常業務（教育研究支援）の紹介と、コロナの影響で数年ぶりに開催された、令和4年度鳥大ものづくり教室についての活動を報告する。

## 「野生イノシシにおける豚熱感染について」

生物生産管理部門 乾燥地科学分野 沖田 総一郎

先日鳥取県内で感染個体が発見された豚熱（旧称豚コレラ）について、概要と全国の状況・対策、鳥取県の状況と対策について発表する予定です。

## 「農学部附属フィールドサイエンスセンター畜産班の業務について」

生物生産管理部門 梅實 貴之

フィールドサイエンスセンターにおける畜産班の日々の業務や取り組みについて報告する。